

「学校に行けない」とはどういうことか

～子どもの“適切な”見つめた方と、『9月』の支援～

令和3年8月28日(土)にクラーク記念国際高校福岡校3Fホールにおいて予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症予防のためインターネット配信で行われました。今回は緊急事態宣言下でもあり、感染症対策のため午前の部(10:00~11:30)、午後の部(14:00~15:30)の2回に分けて参加者を限定して実施されました。どちらの回も前半は不登校経験がある通信制高校の生徒さんのインタビュー。後半は私、ぼちぼちの会会長木村が講師として「学校に行けない」とはどういうことか」をテーマに講演をさせていただきました。

主催者のHPでは

ゲストスピーカーの現役高校生からは、いじめ、先生からのプレッシャーなど不登校になったきっかけや、保護者の対応、フリースクール(東京大志学園)での経験、高校進学、不登校の克服まで、心の変化を含め、自身の体験をじっくり聞かせてもらいました。

その後、講師の木村素也先生からの解説や講話では、不登校の悩みを持つ保護者、教育現場で直面している先生方が貴重な学びと子どもたちへの支援について深い共感を味わいました。

木村先生のお話から少し抜粋します。

○不登校の何が問題か？不登校によって起こる不利益、おもに「学力・進路・人間関係」。これらの不利益による将来の不安こそが問題。これらが解消されればよい。不登校そのものは子どもの問題行動ではない。

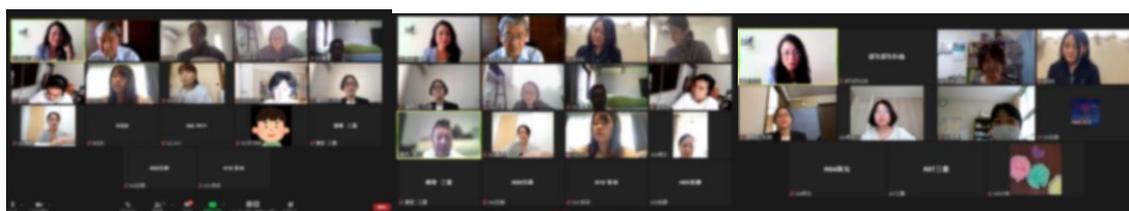
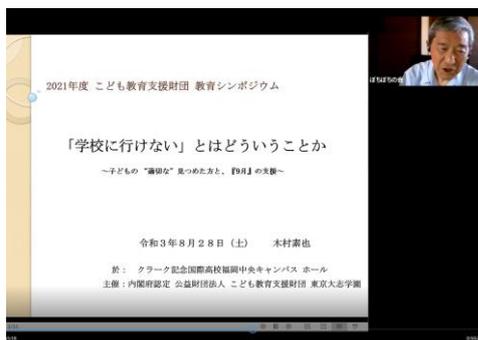
○不登校の状態にある子どもの視点に立ち、「なぜ行けないのか」を共有し、その困り感を排除する『教育的配慮』が必要である。

○教育的配慮とは、子どもの自尊感情を育て、支える行動。できないことに執着するのではなく、今できることにきちんと対応する。自尊感情を育てるには、「子どもが自分で決めること」「周囲の大人は、子どもが決めたことを否定しないで見守ること」それがどうしても受け入れられないのであれば、その理由を説明し、お互いが納得するまで話し合うこと。腫れ物に触るような特別扱いは自尊感情を下げる。自分で決めていくことが自尊感情を上げていく。小さなことでいい。その積み重ねで、やがて進路につながるような大きな決断も自分でできるようになる。

○不登校の子どもにとって、毎日がゼロからの出発。今日できたことを褒める。今日ここまでできたから、明日はもっと、という押しつけは大人の都合である。

このほかにも、もっと具体的な対応の例もアドバイスされました。

次回の教育セミナーを11月6日に行います。詳細が決定しましたら、イベント告知欄にてお知らせいたします。



シンポジウム感想

①2回目ですが講師の木村先生の講話が大変参考になります。次回も楽しみにしています。オンラインでもっと時間を取っていただき話を聞きたいと感じました。ありがとうございました。また、オンライン開催での変更の際して、手厚く丁寧な対応が素晴らしいと感じました。担当の蓬莱さん、本当にありがとうございました。またよろしくお願いします。

②本日は貴重なお時間にご講話いただきありがとうございました。小学校で養護教諭をしています。

時間を決めて保健室登校をしている児童の保護者が『こんな自由な登校を続けていていいのかわかりませんが今は本人を尊重します』とおっしゃっていました。ただ本人は毎日登校しますし、とても楽しそうに色々な話をしてくれます。学習もします。決めた時間が終われば迎えが来て早退しているので、木村先生のお話の通り、自分で決めること、安心できる環境を整えることで本人も登校できるのだなと思いました。

保護者の気持ちに対して聞くことしかできず、どうお答えすべきか迷うこともあったので、今日のお話を今度保護者にもお話をしてみようと思います。本当にありがとうございました。

③今日はありがとうございました。

せっかく事前に蓬莱さんに Zoom の使い方を教えていただいていたのに、操作が上手く行かず手間取りましてすみませんでした。途中からでも参加できて良かったです。

木村先生のお話とてもためになりました。特に不登校の子供の立場に立って、こんな気持ちでいると具体的に例を挙げられており、「ああ～それある!」と何度もうなずきました。その場面で子供がどんな気持ちなのか解説がとてもわかりやすかったです。大人の気持ち

しか持ててなかったなど自分を振り返る良い機会になりました。

④先生のお話に感動しました。不登校児の具体的な家庭での過ごし方、接し方で困っている親御さんが多いと思います。次回、その辺りのお話を頂ければと思います。

⑤一度別室登校になると、学級の方に戻りにくくなる人が多いのですが、それはそれでいいのか、どう支援していくとよいか知りたいです。

また、生徒に「またね」とか「待ってるよ」などと声かけするのも本人にとってはつらかったりするようですが、何も声をかけないのも生徒にとって、必要とされてないと感じて余計につらくなることはないのか。個人差があるのですが、どう接していいかわかりません。

⑥1. 夏休み前は無理をして 11 時頃から学校に行っていました嫌がるならいけないほうが良いのでしょうか

2. 家ではスマホやゲームばかり見ているので少しは勉強したほうが良いと思い 10~20 分ほど一緒にしてますが嫌がるならさせないほうが良いのでしょうか

3. 本人の嫌がることはさせず言うことに共感をしていけばいい方向に向かうのでしょうか

もうどう接するのが一番良いのかわかりません…宜しくお願い致します。。

⑦中学生の不登校の子の高校進学、大学進学についてもっとお話を伺うことができると思いました。木村先生がお話されていたように、学校にいかない不登校の子は進学において不利な状況です。そのなかでどのような心構え、相談、進路選択をしていったらよいかと思っています。

⑧海外の辞書に「不登校」という言葉が載ったように、海外では不登校が日本の社会問題だと捉えられているのではないかと思います。学校に行くことが普通で学校に行かないことは普通じゃないと考えている人がまだ多いのではないかと思います。「学校へ行けない僕と 9 人の先生（棚園正一氏）」という漫画を思い出しました。不登校=悪いことという考え方から早く日本は脱却しないといけないなと感じましたし、今後不登校の子どもたちが不利益を被らないような環境が議論されるような社会であってほしいと思いました。

⑨進今回はありがとうございました。実際に不登校になって今高校で頑張っている生徒さんの体験談が聞け、子供のなまの気持ちが聞けよかったです。

木村先生のお話も分かりやすく、とても参考になりました。

オンライン中に先生の出されたプリント？はいただくことができますか？

頂けたら見直すことができ、主人にも伝えやすいです。

11月に第二回があるということですが、内容はかわりますか？

変わるようでしたらまた是非参加したいです_(._.)_

「学校に行けない」とはどういうことが
子どもの適切なみつけ方と9月の支援

内閣府認定 東京大志学園 福岡校 主催 教育セミナー

対象：保護者、教育関係者

後援：不登校保護者の会「ぼちぼちの会」

昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大による休校や新たな試みであるオンライン授業は、登校できる・できないにかかわらず、子どもたちの心や体、家庭内に多く影響を及ぼしています。「学校へ行けない」ことは悪なのでしょうか？このセミナーでは、中学校時代に不登校を経験した高校生へのインタビューと専門家による解説で、いまの子どもたちとのかかわり方を改めて見直します。今、わたしたちができる支援について、一緒に考えてみませんか？



講師：木村 素也

不登校保護者の会「ぼちぼちの会」会長
元福岡市立中学校長
東京大志学園 顧問

内容：学びの場を見つけた生徒へのインタビュー、講師による解説、講演



お申し込み方法 8/26(木)申し込み締め切り

お電話 092-534-6225 (主催 東京大志学園 福岡校)

メール 下記メールアドレスへ 件名に「シンポジウム参加希望」と明記
本文に参加者様の氏名と住所電話番号をご記入ください

FAX 092-707-0994 下記にご記入後送信してください

ホームページ



東京大志学園福岡校

検索

ふりがな			参加者様の属性(Oをつけてください)	
お名前 (代表者)			保護者(お子様の学年:) / 教員 施設職員 / カウンセラー / その他()	
参加人数 人			教育関係者の場合: ご所属:	
ご住所	〒				
電話番号	()	Mail	@		
認知媒体 Oをつけて下さい	学校からの紹介 / 教育支援機関からの紹介 / 東京大志学園からの案内 WEBサイトでお調べいただいた / その他()				
参加回数	初めて ・ 1回 ・ 2回以上				
参加時間帯	午前 ・ 午後				

2021/8/28(土) 午前の部: 10:00~11:30
午後の部: 14:00~15:30

内容: 生徒インタビュー及び講演 定員: 各回25名 ※同じ内容ですので、ご都合の良い方にご参加ください

・会場: 〒810-0014 福岡市中央区平尾1丁目7-1 東京国際ビジネスカレッジ福岡校3階ホール

・費用: 1,000円/おひとりさま (ご家族でご参加の場合、ひと組)

・お問い合わせ: ☎092-534-6225 ✉ fukuoka_info@kodomo-zaidan.net